

はじめに

NH Kから参議院へ

NH Kの解説委員から、国会議員になって、今年で12年目になります。1998年夏、党が名簿順位をつける最後の参議院議員選挙で、比例名簿1位の候補者として全国を走り、初当選しました。5年間の参議院での議員活動としては、超党派の議員立法として、DV（配偶者からの暴力）防止法を、3年間かけて、いちからつくったことなどがあります。また、2001年には、当時の鳩山由紀夫代表から、民主党の次の内閣の環境大臣に任命されました。鳩山政権になって脚光をあびている地球温暖化対策ですが、そのもとなつている京都議定書ができ、その後の日本としての取り組みを検討するときで、環境税の早期導入などの政策を打ち出しました。

参議院の環境委員長をしているときに、世田谷選出の衆議院議員だった石井紘基さんが暴漢に刺され、志半ばで亡くなりました。石井さんと私は成城学園の同窓です。

その後、同じく成城学園出身の大先輩、羽田孜さんから、補欠選挙出馬の要請を受けました。「こんな状況で民主党が候補者を立てないわけにはいかない。世田谷にゆかりのあるあなたが、出てくれないか」。補欠選挙は自民党が圧倒的に有利と言われた時代でしたが、「NHKを辞めて参議院議員候補になるときに、3日で決断したと聞いているから3日待つ」と言われ、私は1日で補欠選挙の候補になることを決断しました。

衆議院議員になって

2003年4月の衆議院議員補欠選挙で、東京6区（世田谷の北側3分の2）選出の議員になって、今年で7年目になります。補欠選挙では、越智通雄元金融再生委員会委員長に勝ち、その年の11月の解散総選挙からは、息子さんの越智たかおさんが自民党からの対立候補。4回の選挙のうち、小泉郵政選挙のときだけは小選挙区で惜敗し、比例復活になってしまいました。あとの3回は今回（2009年8月の政権交代選挙）を含めて私が小選挙区で当選しています。

衆議院議員になってまず取り組んだのは、裁判員制度の導入などの司法制度改革で

す。100年に一度といわれた大改革でした。菅直人代表のときで、当時政調会長だった枝野幸男さんから、「国民の目線での司法制度改革するためには、これまでのように法曹関係者がやったのでは、だめなんだ。そして、多くの抵抗に負けないで、やりぬく人でないと……」と、私が引き受けざるを得ない上手な言いまわしで口説かれ、まったくの素人なのに、次の内閣の法務大臣を引き受けたのでした。裁判員制度や、司法の公的扶助制度（今の「法テラス」）の創設、さらに今話題になっている、取り調べの可視化など、議員になってから一番勉強した時期だったかもしれません。裁判員制度の実施にあたっては、延期をしたほうがよいなどさまざまな議論がありましたが、無事スタートし、概ね順調に運用されていると思います。日本人の民度は、たいしたものだと改めて感じています。

その後、私がNHKの頃から取り組んできた、子ども／男女共同参画／人権・消費者の次の内閣の大臣を2期務めました。この間に、今回の選挙の目玉政策となった「子ども手当」の制度設計、就学前の居場所づくり、ワークライフバランスを実現するための均等待遇、小児医療の充実などの法案をつくりました。子ども政策の哲学と、総合的な政策を、「育ち・育む応援プラン」と題する冊子にまとめ、民主党の子ども

も・子育て応援政策の土台をつくったのが、2006年5月のことです。消費者政策としては、ひとりひとりでは被害額が小さいものの、全体としては多くの被害者がいるものについて、適格消費者団体が代わって訴訟をする「消費者団体訴訟」制度を、消費者契約法の改正という形で、より使いやすしいものになるよう民主党から修正をして実現しました。

その後、青少年問題特別委員長として、「児童虐待防止法」の2回目の改正を、与野党の筆頭理事とともに先頭に立って行ないました。

2007年秋からの約2年間は、次の内閣の文部科学大臣を務めました。教育基本法の大きな改正の後ではありませんでしたが、民主党の対案での考え方をベースに、高校の授業料無償化、大学には奨学金で希望者全員が行けるようにすることなど、子どもひとりひとりの学習権を守る政策に取り組みました。また、学力が落ちたといわれ、ゆとりから授業時間を増やす方向に文部科学省は転換しましたが、もつと、人としての生きる力をつけるには、コミュニケーション能力を高める教育が必要との視点で質疑などをしました。

政権交代までの3年間

前回、『私の政治の歩き方② 衆議院編』を書いてから3年が経ちました。この間、自民党政権は、小泉元総理から、安倍・福田・麻生総理へと、毎年、総理の座を前任者が投げ出し、自民党内でのたらいまわしを行なってきました。冷戦構造が終わり、業界団体や既得権をもつ人に支えられる政治が支持を失っていく中で、自民党が自ら歩んだ転落の道。タレント性の強い小泉総理が、一時的に支持を盛り返した分だけ、政権交代を遅らせてしまった、という見方もできるのではないのでしょうか。いずれにしても、機は熟しつつあったのです。そして、ついに、2009年、政権交代が、初めて選挙によって実現し、民主党の鳩山政権が、高い支持率のもと、政治家主導の新しい政治をスタートさせたのでした。

私個人としても、この3年の間に、還暦をむかえました。長男と次男が結婚し、次男のところには、2歳になる孫もいます。そして、私が多くのもを受け継いでいると思っている父 加藤一郎が、2008年11月に永眠しました。私の中でも、ひとつの区切りかと考えるこの時期に、これまでの、議員になって4年ごとに本にまとめてきたことから1年早いのですが、この本を執筆することになりました。